

全農薬通報

No. 349

2025 年（令和 7 年）6 月 30 日

目 次

◎主な行事予定

- ・全国農薬協同組合
- ・植物防疫関係団体

◎組合からのお知らせ

- ・クロップライフジャパン 総会・講演会
- ・（一社）日本植物防疫協会 総会
- ・（公社）緑の安全推進協会 総会
- ・2025 年度農薬危害防止に関する講演会
- ・緑の安全推進協会設立 30 周年記念行事

◎行政からのお知らせ

- ・令和 7 年度の蜜蜂被害軽減対策の推進について

◎全農薬ひろば

- ・白山神社と孫文



全国農薬協同組合



〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 23-1 Yunuo ビル 3F

TEL：03-3254-4171

FAX：03-3256-0980

<https://www.znouyaku.or.jp> E-mail：info@znouyaku.or.jp

全農薬の主な行事予定

「全国農薬協同組合」

2025 年（令和 7 年）

- 7 月 10 日(木) 2025 年度 農薬シンポジウム in 愛媛
- 7 月 17 日(木) 13：30～17：00 安全協常任幹事会・情報交換会
- 9 月 18 日(木) 10：30～17：00 第 318 回理事会(執行部協議会、各委員会)
- 10 月 6 日(月)～10 日(金) 第 104 回植物防疫研修会（農薬安全コンサルタント）
- 10 月 23 日(木) 10：00～12：00 監査会(理事長、監事)
- 10 月 15 日(水)～17 日(金) 第 12 回農薬安全コンサルタントリーダー研修
- 11 月 12 日(水) 13：00～15：00 第 319 回理事会
- 11 月 12 日(水) 16：00～18：30 クロップライフジャパン虫供養(浅草寺)
- 11 月 13 日(木) 10：30～12：00 第 60 回通常総会
- 11 月 13 日(木) 13：00～19：30 創立 60 周年記念
第 48 回安全協全国集会・情報交換会
- 12 月 10 日(水) 13：30～17：00 第 320 回理事会（執行部協議会、各委員会）
- 12 月 11 日(木) 10：30～12：00 全農薬受発注システム利用メーカー協議会総会

2026 年（令和 7 年）

- 2 月 2 日(月)～ 6 日(金) 第 105 回 植物防疫研修会（農薬安全コンサルタント）

「植防関係団体」

- 7 月 30 日(水) 植物防疫団体総務連絡会
- 9 月 17 日(木) 日本植物防疫協会シンポジウム（北とびあ ハイブリッド形式）
- 9 月 26 日(金) 報農会 シンポジウム及び功績者表彰式
- 11 月 12 日(水) 虫供養 クロップライフジャパン（旧 JCPA 農薬工業会）



胡蝶蘭

（引越しのお祝いにいただき、
鉢分け後に再度花が咲きました）
花言葉 『幸福が飛んでくる』

組合からのお知らせ

1. クロップライフジャパン（旧 JCPA 農薬工業会）

（1）第 94 回通常総会

開催日時：2025 年 5 月 14 日（水）

開催場所：鉄鋼会館（日本橋茅場町）



総会では、2024 年度事業報告および 2025 年度事業計画案を承認し、役員選任を行った。

1) 2024 年度クロップライフジャパン事業報告

2024 年度は、日本と世界の食と農業へ貢献する為、2024 年 5 月に公表された新ビジョンに沿って、日本と世界の食料安全保障、持続可能な農業への貢献、環境にやさしいイノベーションの推進、安全の先にある安心な食生活を楽しめる社会の実現に向け、以下の事業を展開した。

1.日本の農業生産性向上と農産物の輸出拡大、世界の農産物需要に対応した作物保護技術の提供

2.環境を守るための技術革新とカーボンニュートラルへの取り組み

3.社会の信頼を確保するため、適正な農薬使用の推進と科学的な情報発信

4.人材の育成、資質向上

特に 3 の情報発信については、消費者への活動として、SNS を活用し、若年層を対象として農薬に関する正確な情報発信を継続した。クイズ王 伊沢氏が率いる知識集団 QuizKnock とコラボし、対談動画「食の未来を考える」を 11/1 に YouTube 配信し、3 月末で約 3000 回の視聴があり、作物保護に関する科学的な情報を発信することで科学・情報リテラシーの向上につなげた。

2) 2025 年度クロップライフジャパン事業計画

1.2025 年度事業方針

世界人口が増加し、食料需要も増加する一方、異常気象の頻発化や地政学的リスクの高まりにより、世界の食料生産・供給は不安定化している中、国内では、食料安全保障の確保、環境と調和のとれた食料システムの確立、農業の持続的な発展等を目指す新たな食料・農業・農村基本法が策定された。食料・農業をめぐる情勢の変化、会員の事業活動の拡大を踏まえ、2024 年度に策定した新ビジョンの実現に向けた下記の取り組みを進める。

2.重点事業計画

（1）日本の農業生産性日本の農業生産性向上と農産物の輸出拡大、世界の農産物需要に対応した作物保護技術を提供する

- (2) 環境を守るための技術革新とカーボンニュートラルに取り組む
- (3) 社会の信頼を確保するため、適正な農薬使用の推進と科学的な情報を発信する
- (4) 人材の育成、資質向上に努める

3) 2025 年度クロップライフジャパン役員・委員体制（5 月 14 日付・敬称略）

<役員>

会長 岩田 浩幸（日本農薬株式会社 代表取締役社長）

副会長 藤本 博明（住友化学株式会社 顧問）

副会長 佐藤 祐二（日産化学株式会社 専務執行役員）

副会長 大島 美紀（バイエルクロップサイエンス株式会社 代表取締役社長）

常勤理事 松浦 克浩（クロップライフジャパン 専務理事）



左から佐藤副会長、藤本副会長、岩田会長、大島副会長、松浦専務理事

幹事 山本修（アグロカネショウ株式会社 代表取締役社長）

幹事 堀江幹也（石原産業株式会社 代表取締役専務執行役員）

幹事 山田正和（協友アグリ株式会社 代表取締役社長）

幹事 高木誠（クミアイ化学工業株式会社 相談役）

幹事 的場稔（シンジェンタジャパン株式会社 代表取締役会長）

幹事 大庭一夫（日本曹達株式会社 執行役員）

幹事 野田信介（BASFジャパン株式会社 アグロソリューション事業部長）
 幹事 古塩賢太郎（丸和バイオケミカル株式会社 代表取締役社長）
 幹事 小澤敏（三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社 特別顧問）
 理事 ダニエルケンジカノウ（アリスタライフサイエンス株式会社 代表取締役社長）
 理事 阿部徹（株式会社エス・ディー・エスバイオテック 代表取締役社長）
 理事 平井康弘（エフエムシー・ケミカルズ株式会社 代表取締役社長）
 理事 岡尚（OAT アグリオ株式会社 代表取締役社長）
 理事 植田拓也（科研製薬株式会社 特薬部長）
 理事 多田靖浩（株式会社クレハ 化学品事業部長）
 理事 野村真一郎（コルテバ・ジャパン株式会社 代表取締役社長）
 理事 児玉聖一郎（日本化薬株式会社 執行役員）
 理事 畠山直樹（ホクサン株式会社 代表取締役社長）
 監事 福谷明（サンケイ化学株式会社 代表取締役社長）
 監事 田中卓（住商アグロインターナショナル株式会社 代表取締役社長）

<委員長>

運営委員会 井ノ下順二郎（日本農薬株式会社）
 技術委員会 吉田浩之（シンジェンタジャパン株式会社）
 広報委員会 鈴木欣也（住友化学株式会社）
 安全対策委員会 池本祐志（日本農薬株式会社）
 国際委員会 木村卓生（クミアイ化学株式会社）

(2) 通常総会後の講演会・懇親会

通常総会終了後に同会場で講演会、懇親会が行われた。

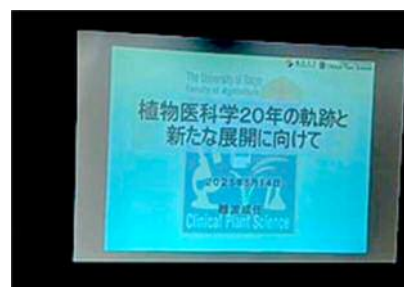
出席者：栗原理事長、鈴木参事、植草顧問



1) 講演会

演題：植物医科学 20 年の軌跡と
 新たな展開に向けて

演者：難波成任 氏
 （東京大学名誉教授）



講演要旨

病害・虫害・雑草害により農作物の35%、約10億人分の食料とほぼ同じ量が損失している。さらに、植物病（微生物病＋害虫病＋生理病＋雑草害＋汚染物質害＋気象害、難波氏が提唱）により食料の52%が損失している。これら農産物の損失を抑えるには、植物防疫分野においても医療における「総合診察」にあたる広い分野に明るいプロフェッショナルの養成が急務と考え、「植物医科学」を創設した。米国では、各州に平均2か所の大学植物病院があり、これを参考に東京大学に「植物医科学」研究室、「植物病院」を開設した。現在では、法政大学、吉備国際大学に「植物病院」が設置され、JA あいち経済連、JA 鹿児島経済連に東大植物病院連携植物病院が開設され、広がりを見せている。農薬業界には、「植物医師」・「植物病院」との連携、「植物医科学」の事業化・国際展開への支援をお願いしたい。

2) 懇親会

同会館8階にて立食形式で開催され、会員会社の他、関係府省、関係団体、報道関係者などが出席した。冒頭では岩田新会長からのご挨拶があり、来賓として農林水産省消費・安全局の安岡局長から祝辞が寄せられました。大島新副会長より乾杯のご挨拶と発声があり、和やかな雰囲気の中で情報交換が行われました。



挨拶
岩田会長



祝辞
安岡局長



乾杯
大島副会長



中締め
佐藤副会長

中締めとして佐藤伸会長からご挨拶があり、盛況のうちにお開きとなりました。



2. (公財) 日本植物調節剤研究協会

第 14 回 評議員会

開催日時：2025 年 5 月 29 日（木）

開催場所：植調会館 3 階会議室（東京都台東区）

報告事項

I. 2024 年度事業報告の件

1. 会務に関する事項

会議：第 32 回～第 34 回理事会、第 13 回評議員会、監査会、事業推進会議

その他：賛助会員の動向、創立 60 周年記念御璽の開催

2. 植物調節剤の検査・検定事業

(1) 植物調節剤の薬効・薬害執権

(2) 植物調節剤の作用特性試験

(3) 植物調節剤の残留試験及び農薬使用者暴露試験

(4) 植物調節剤の永年蓄積残留試験

(5) 検定・検査事業に関する研修

3. 植物調節剤の研究開発事業

(1) 重点研究課題 問題雑草の防除等

(2) 基盤研究

4. 植物調節剤の普及啓発事業

(1) 植物調節剤の技術確認圃

(2) 除草剤適正使用にキャンペーン

(3) 技術情報の公開

(4) 植物調節剤に関する研究会・講習会の開催

(5) 機関誌の発行

5. 不動産の賃貸事業

決議事項

1. 2024 年度決算承認の件

2. 理事・監事の選任の件

（新任理事）：糺谷 斉、土田 徹

（退任理事）：長澤 裕滋、横山 幸徳

3. 評議員の選任の件

（新任評議員）：井上 雅夫、大友 哲也、宗 和弘

（退任評議員）：氏家 敬、原田 孝則、藤本 博明

【敬称略】

3. （一社）農林水産航空協会

第123回 総会

開催日時：2025年6月16日（月）14:00～

開催場所：都道府県会館 101 会議室（千代田区平河町）

出席者：鈴木参事

開会

1. 会長挨拶 福盛田共義 会長
2. 農林水産省挨拶 農林水産省消費・安全局植物防疫課 春日井健司 防疫対策室長
3. 議長選出
4. 議事録署名人の指名
5. 議案審議

第1号議案 令和6年度事業報告に関する件

- ・会員数
- ・理事会-総会関係
- ・事業報告

農林水産業における航空機等(有人ヘリコプター及び産業用無人航空機(無人ヘリコプター及びマルチローター式小型無人機(以下、「マルチローター」という))の利用(薬剤、肥料、種子の散布等に利用する事業)の安全かつ効率的な推進を図ることにより、農林水産業の安定生産、生産性の向上を図り、もってわが国の食料自給率の向上、国民の食の安全、生活・自然環境の保全に寄与することを目的とし次の事業を実施した。（内容省略）



農林水産航空協会総会の様子

第2号議案 令和6年度財務諸表承認に関する件

- ・ 正味財産増減計算書
- ・ 貸借対照表
- ・ 財産目録
- ・ 監査報告

第3号議案 令和7年度会費の分担及び徴収方法に関する件

第4号議案 令和7年度役員報酬の総額に関する件

第5号議案 役員の改選に関する件

- ・ 一般社団法人 農林水産航空協会役員

会 長	福盛田 共義	(農林水産航空協会)
常務理事	五月女 淳	(農林水産航空協会)
理 事	秋森 吉樹	(全国農業協同組合連合会)
理 事	稲垣 照哉	(全国農業会議所)
理 事	宇田川 雅之	(東邦航空株式会社)
理 事	大島 美紀	(クロップライフジャパン 新任)
理 事	杉浦 弘明	(ヤマハ発動機株式会社)
理 事	徳井 和久	(全国農業共済協会)
理 事	中村 雅人	(北陸スカイテック株式会社)
理 事	濱村 謙史朗	(日本植物調節剤研究協会)
理 事	福田 裕士	(朝日航洋株式会社 新任)
理 事	松岡 滋治	(中日本航空株式会社)
理 事	松岡 隆二	(株式会社ヘリサービス)
理 事	元広 雅樹	(全国農業協同組合中央会)
監 事	鈴木 敦	(全国農薬協同組合)
監 事	高橋 正幸	(公認会計士)

以上のとおり承認された。

【敬称略】

閉会

4. (一社)日本植物防疫協会

第14回 総会

開催日時：2025年6月13日(金)

開催場所：アートホテル日暮里ラングウッド
(荒川区東日暮里)

出席者：栗原理事長、鈴木参事、植草技術顧問

総会次第：

1. 開会
2. 早川理事長挨拶
3. 来賓挨拶

農林水産省消費安全局植物防疫課 課長 小宮英稔 氏

農業・食品産業技術総合研究機構 植物防疫研究部門 所長 大藤泰雄 氏

4. 議長選出及び議事録署名人選任

5. 議事

定款の規定に基づき、早川理事長が議長となり、
富田専務理事、曽根常務理事及び高木常務理事から
提出議案の説明が行われた。



早川理事長



小宮課長

- (1) 第1号議案 2024年度事業報告及び収支決算に関する件

事業報告について、実施事業、試験研究事業、支援事業及び不動産賃貸事業等への取り組みの報告及び2025年度事業計画のポイントを含め収支決算についての説明が行われた後、岡田監事から監査報告がなされ、当議案は原案どおり異議なく承認された。

事業項目

1. 植物防疫資材に関する試験研究の受託実施
2. 登録の少ない農作物に対する農薬登録の促進
3. 植物防疫に関する調査研究の実施
4. 植物防疫に関する研修会及び講演会等の開催
5. 植物防疫に関する歴史的な史料の展示
6. 植物防疫に関する印刷物の発行
7. 植物防疫に関する諸情報の収集及び提供
8. 植物防疫関連資材の提供
9. 植物防疫に関する国内外の関係機関との連携
10. 不動産の賃貸に関する事業
11. 会員への情報提供及び親睦
12. 会務に関する事項

(2) 第2号議案 役員人事に関する件

1.提案趣旨：任期途中にある大森理事、小澤理事及び西尾理事から本総会終結をもって退任の申し出があったことから、新たな理事3名の補欠選任を諮る。

2.新任理事

岩田 浩幸（クロップライフジャパン会長、日本農薬株式会社 代表取締役社長）

栗原 秀樹（全国農薬協同組合理事長、株式会社栗原弁天堂 代表取締役社長）

津田 新哉（法政大学生命科学部応用植物科学科教授、植物医科学センター所長）

任期は2027年6月の総会まで

補欠選任案は承認され、現役員は以下の通り

【理事】（8名）

岩田浩幸〔新任〕、栗原秀樹〔新任〕、曾根信三郎、高木 豊、田中啓司、
津田新哉〔新任〕、富田恭範、早川泰弘

【監事】（2名）

岡田 茂、篠原弘亮

【敬称略】



岩田理事



栗原理事



津田理事

新役員3名の写真は「植防コメント」より引用させていただきました。

(3) 第3号議案 役員報酬に関する件

理事会で承認された2024年度予算同との説明後、原案どおり異議なく承認された。

(4) 第4号議案 会費に関する件

前年同との説明後、原案どおり異議なく承認された。



例年通り、総会後に懇親会が行われ、200名以上が集まり盛況であった。

大森前理事による懇親会中締め

5. (公社) 緑の安全推進協会

第 36 回 通常総会

開催日時：2025 年 6 月 17 日（火）

開催場所：エッサム神田ホール 2 号館 301 会議室
（千代田区内神田）

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議長選出
5. 議事録署名人選出
6. 議事の目的事項



(1) 決議事項

第 1 号議案 2024 年度事業報告及び収支決算承認の件

【2024 年度事業報告】

公益目的事業の「緑の安全管理士関係事業」・「講師派遣事業」・「出版事業」について、理事会・総会・委員会・専門部会等会議の開催状況、監査の実施と適正報告の受領が報告された。

【2024 年度収支決算】

2024 年度収支決算について資料により説明された後、監事より監査報告があり、第 1 号議案は承認された。

第 2 号議案 役員選定の件

第 36 回通常総会の終結をもって全役員が任期満了となるため理事 14 名、幹事 2 名を選定する。

新役員体制が次頁 の通り選定された。

(2) 報告事項

2025 年度事業計画及び収支予算

【2025 年度事業計画】

- 1) 公益目的事業 1 農薬の適正使用に関する研修「緑の安全管理士」資格認定事業
- 2) 公益目的事業 2 農薬の適正使用に関する知識の普及・啓発事業
- 3) 公益目的事業 3 農薬の安全使用に関する図書・印刷物等の発行等

4) 会員や一般への情報提供 公益目的事業 共通

5) 委員会活動等

【2025年度予算】資料により説明された。

<2025年度 新役員>任期2年(2027年6月まで)

会 長

根岸 寛光(公社・緑の安全推進協会)

副会長

小林 由幸(株式会社ロイヤルグリーンメンテナンス)

岩田 浩幸(クロップライフジャパン会長、日本農薬株式会社)

専務理事

白岩 豊(公社・緑の安全推進協会)

理 事

秋森 吉樹(全国農業協同組合連合会 本所 耕種資材部次長)

梅田 公利(住友化学園芸株式会社)

栗原 秀樹(全国農薬協同組合理事長、株式会社栗原弁天堂)

篠原 卓朗(株式会社理研グリーン)

永井 統尋(株式会社ニチノー緑化)

仁木 理人(バイエルクロップサイエンス株式会社)

林 和也(日産化学株式会社)

松浦 克浩(クロップライフジャパン)

三浦 洋之(住友化学株式会社)

外部理事

石田 直理雄(公財 国際科学振興財団 時間生物学研究所)

監 事

鈴木 望文(小西安農業資材株式会社)

外部監事

瀬川 雅裕(一財 日本土壌協会)

【敬称略】

6. (一財) 残留農薬研究所

第 14 回 評議員会

開催日時：2025 年 6 月 17 日（火）

開催場所：霞が関法曹会館（千代田区霞が関）

評議員会次第

1. 理事長挨拶
2. 来賓挨拶
3. 議長選任
4. 議事録署名人の選任
5. 報告

(1) 2024 年度事業報告

事業の経過及びその成果の報告

資金調達等の状況

剤案及び損益の状況

主要な事業内容等

(2) 2024 年度公益目的支出計画実施報告（内閣府提出）

6. 審議

第 1 号議案 2024 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件
資料により説明があり承認された。

第 2 号議案 評議員の選任

大森評議員、岩田評議員、的場評議員からの辞任の申し出に伴い、大森評議員の後任に全国農薬協同組合理事長 栗原秀樹 氏、岩田評議員の後任にクロップライフジャパン副会長 大島美紀 氏、的場評議員の後任に同副会長 佐藤祐二 氏を選任する。なお、3 名の新評議員の任期は 2028 年 6 月の提示評議員会終結時まで。

第 3 号議案 監事の選任

廣岡監事からの辞任の申し出に伴い、後任の監事にクロップライフジャパン事務局長 西竹哲義 氏を選任する。なお、西松監事の任期は 2028 年 6 月の提示評議員会終結時まで。

理事

代表理事	理事長	大友 哲也
代表理事	常務理事	牧 伸一
業務執行理事	総務部担当	長田 芳和



残研評議員会の様子

業務執行理事 化学部長 大山 和俊
業務執行理事 毒性部長 首藤 康文

【敬称略】

評議員

赤堀 文昭（麻布大学 名誉教授）
秋森 吉樹（全国農業協同組合連合会 耕種資材部次長）
安部 浩（東京農工大学 名誉教授）
大澤 貴寿（学校法人 東京農業大学 特別顧問）
大島 美紀（クロップライフジャパン 副会長）
栗原 秀樹（全国農薬協同組合 理事長）
佐藤 祐二（クロップライフジャパン 副会長）
濱村謙史朗（公財 日本植物調整剤研究協会 専務理事：新任）
早川 泰弘（一社 日本植物防疫協会 理事長）
福盛田共義（一社 農林水産航空協会 会長：新任）
山本 出（学校法人 東京農業大学 名誉教授）
山本 雅之（東北大学東北メディカル・メガバンク機構 分子医化学分野）
山本 幸洋（千葉県農林総合研究センター土壌環境管理室 室長）

【敬称略】

監事

西竹 哲義（クロップライフジャパン 事務局長）
野竹 照秀（野竹税理士事務所 税理士）
羽隅 弘治（京浜興農株式会社 代表取締役会長）

【敬称略】

7. 2025 年度 農薬危害防止に関する講演会 ～ 農作物生産現場における農薬飛散と作業者暴露低減技術 ～

クロップライフジャパン安全対策委員会主催

日時：2025 年 6 月 11 日（水）14：00～17：00

場所：日本教育会館 707号室（千代田区一ツ橋）

開催形式：ハイブリッド開催（会場及びWEB 開催）

出席者：鈴木参事、植草技術顧問



松浦専務理事

開会挨拶：クロップライフジャパン専務理事 松浦 克浩 氏

講演：

○「農薬の危害防止について」

農林水産省 消費・安全局農産安全管理課農薬対策室

課長補佐 廣谷 龍輔 氏



廣谷課長補佐

○「防護装備(化学防護手袋)について」

株式会社重松製作所企画部

安藤 眞理 氏

○「土壌くん蒸剤クロルピクリンの使用の現状と安全使用啓発について」

クロルピクリン工業会

事務局長 新美 達生 氏



質疑応答

閉会挨拶：クロップライフジャパン安全対策委員長

池本祐志 氏

会議資料を全農薬 HP＞組合員情報サイトにアップを
予定しています。



池本委員長

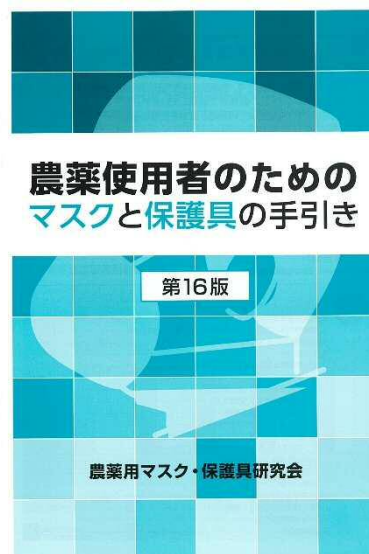
8. 農薬用マスク・保護具研究会

令和 7 年度 総会

開催日時：2025 年 6 月 23 日（月）

開催場所：台東一丁目区民館 2 階第 2 会議室
（台東区台東 1 丁目）

出席者：植草技術顧問



1. 開会挨拶

（一社）日本くん蒸技術協会
専務理事 大村克己 氏

2. 議事

(1) 令和 6 年度事業報告及び決算報告

①講師派遣事業については、マスク・保護具専門家及び事務局による講習は 6 都県 9 回で受講者は 593 名であった。

②「農薬使用者のためのマスクと保護具の手引き」、チラシ及び「講習において使用する説明用 PPT」について、マスクの名称変更に対応するとともに不浸透性手袋、不浸透性防護衣及び保護めがねを含めた改訂版を作成した。

③農薬の種類と対応マスク検索用ファイルを改訂し第 12 版を作成した。

④令和 6 年度の収支決算については、資料に基づき説明がなされ適法である旨の監査報告がなされた。

(2) 農薬使用者のためのマスクと保護具の手引きについて

「農薬使用者のためのマスクと保護具の手引き」と改名し、会員各位の協力の下で第 16 版として改訂版を作成した。なお、「農薬使用者のためのマスク
「・」保護具の手引



き」が適切である旨ご意見を受け、今後改訂の機会に変更することとした。

(3) 中小規模事業場安全衛生サポート事業について

中央労働災害防止協会（以下“中災防”）が本事業（厚労省関係）を実施し無料で講習を行い、所要時間は 2 時間程度である。今年度から農業対策として対象を広げて実施し、保護具の場合、講師は中災防の専門家のほか、保護具メーカーからの専門家とするとのこと。今後当研究会の派遣実態を勘案し、中災防における対応や実態（川崎市や関西の

JA等)を調べて、対応を検討することとした。

(4) 令和7年度事業計画案及び予算案

事務局から総会資料に基づき説明し意義なく承認された。

(5) その他

当研究会として、積極的な活動を行うことが重要で、農家が容易に保護具を入手できているか、異常気象の中、高温下で日中の保護具を着用できるのかなど調査やアンケートを実施してはどうかとの意見が出された。

3. 講演

「保護めがねについて」

株式会社重松製作所 安藤眞理 氏



講演される安藤氏

4. 来賓挨拶

農林水産省消費・安全局農産安全管理課

農薬対策室 監査登録係長 今野亜紀 氏



挨拶される今野氏

9. 緑の安全推進協会設立 30 周年記念行事

開催日時：2025 年 6 月 25 日（水）

開催場所：鉄鋼会館（日本橋茅場町）

出席者：栗原理事長、鈴木参事、植草技術顧問

1. 講演会

演題：「農薬の環境リスクの変遷と生活環境における生物多様性の保全について」

演者：五箇公一 博士 国立研究開発法人国立環境研究所

生物多様性領域 生体リスク評価・対策研究室 室長



講演される五箇氏

2. 祝賀会

会長挨拶 緑の安全推進協会 根岸会長

来賓挨拶 農林水産省消費安全局植物防疫課

課長 小宮英稔 氏

農林水産省消費安全局農産安全管理課

農薬対策室長 宇井伸一 氏

乾杯挨拶 緑の安全推進協会 岩田 副会長

（クロップライフジャパン会長）

中締め 緑の安全推進協会 小林由幸 副会長



根岸会長



小宮課長



宇井室長



岩田副会長



小林副会長

10. 農薬シンポジウム 2025 in 愛媛 開催のお知らせ

愛媛県伊予市で以下の通り開催する運びとなりましたので、ご案内いたします。

日時：2025年7月10日（木）13：00～16：00

場所：ウェルピア伊予 大宴会場 2F『銀河』



毎日の食卓を彩る農産物、これを安全かつ安定的に育てるために、その基準の範囲内で使用される農薬について、漠然とした不安や疑問を抱かれている消費者の方も多いことでしょう。しかし、食糧生産にとって必要な農薬は、農業生産の安定、生産物の品質向上、農作業の省力化、効率化に大きく貢献しています。そこで農薬の働きや安全性について、農作物を生産する仕組みをあわせ、わかりやすく説明お答えするためにシンポジウムを開催します。

日時 **2025年**
7月10日 木
13:00～16:00

[受付開始 12:30～]

会場 **ウェルピア伊予**
大宴会場 **2F『銀河』**

講演 **基調講演**
「農薬とは何？」
講師 千葉大学名誉教授
本山 直樹 先生



場所：伊予市下三谷1761-1

当日アンケートにお答え頂いた方に
プレゼントをお渡しします！



パネルディスカッション

テーマ	「食の安心安全と農薬の役割」
コーディネーター	愛媛県 農林水産研究所 所長 森貞 雅博
パネリスト (消費者代表)	池田 祥世
パネリスト (販売者代表)	(株)松山生協取締役 岡田 明夫
パネリスト (生産者代表)	高石 文雄
パネリスト (農業メーカー)	クロップライフジャパン

お問い合わせ 事務局：(株)金井商会 西竹

主催/全国農薬安全指導者協議会愛媛県支部

後援/愛媛県農薬卸協同組合

行政からのお知らせ

1. 令和 7 年度の蜜蜂被害軽減対策の推進について

7 消安第 1800 号

7 畜産第 820 号

令和 7 年 6 月 19 日

全国農薬協同組合理事長 殿

農林水産省消費・安全局農産安全管理課長

畜産局畜産振興課長

このことについて、別添のとおり、地方農政局等を通じ、各都道府県に通知しましたので、御理解及び御協力をお願いします。

(別添)

令和 7 年度の蜜蜂被害軽減対策の推進について

農薬の関与が疑われる蜜蜂被害対策については、平成 25 年度からの 3 年間に蜜蜂の被害と周辺作物の作付状況及び農薬の使用状況との関連性等の情報を収集した結果に基づき、被害を軽減するための対応の周知・指導をお願いしているところである。

令和 7 年度においても、引き続き、農薬等による蜜蜂の被害を軽減するため、下記の事項について了知の上、貴管下の各都道府県に対し、周知・指導願いたい。

なお、下記の事項を実施するに当たっては、必要に応じて、消費・安全対策交付金を活用するよう、併せて周知願いたい。

記

- 1 農薬による被害の低減について
 - (1) 蜜蜂の被害に関する認識の共有
 - (2) 情報共有の更なる徹底
 - (3) 被害軽減のための対策の推進
 - (4) 対策の有効性の検証等
- 2 蜜蜂に寄生するダニの被害の低減について

別添詳細は以下より

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_mitubati/attach/pdf/notice-10.pdf

技術情報

1. 微生物農薬「マスタピース水和剤」の新たな効果とメカニズムを発見 -土壌病害防除とグルタミン酸による効果増強-

2025 年 4 月 23 日

概要

日本曹達株式会社圃場評価研究部のチームと国立研究開発法人農研機構生物機能利用研究部門のチームは微生物農薬「マスタピース水和剤」に関する共同研究を行い以下の成果を上げました。

1. マスタピース水和剤の有効成分である *Pseudomonas rhodesiae* HAI-0804 株(以下 HAI-0804 株)はキュウリの土壌病害(ピシウム病)を抑制することを明らかにしました。
2. HAI-0804 株の病害抑制メカニズムは、抗菌性物質の産生ではなく、根の表面に定着し物理的なバリアを形成することに起因していることが分かりました。
3. グルタミン酸を添加することで、HAI-0804 株の根への定着能力と病害抑制効果が向上することも分かりました。

【試験の概要】

土壌中にピシウム病菌が蔓延する環境下でキュウリ幼苗を栽培しました。同じ環境下でシュドモナス属細菌を添加して栽培すると生育の回復がみられました。そこにさらにグルタミン酸を添加すると病害抑制効果が高まりました(図)。

キュウリ幼苗に蛍光標識した HAI-0804 株を処理して観察したところ、グルタミン酸を加えない場合と比べて、グルタミン酸を加えた場合では、苗に定着する菌が増えることが分かりました。

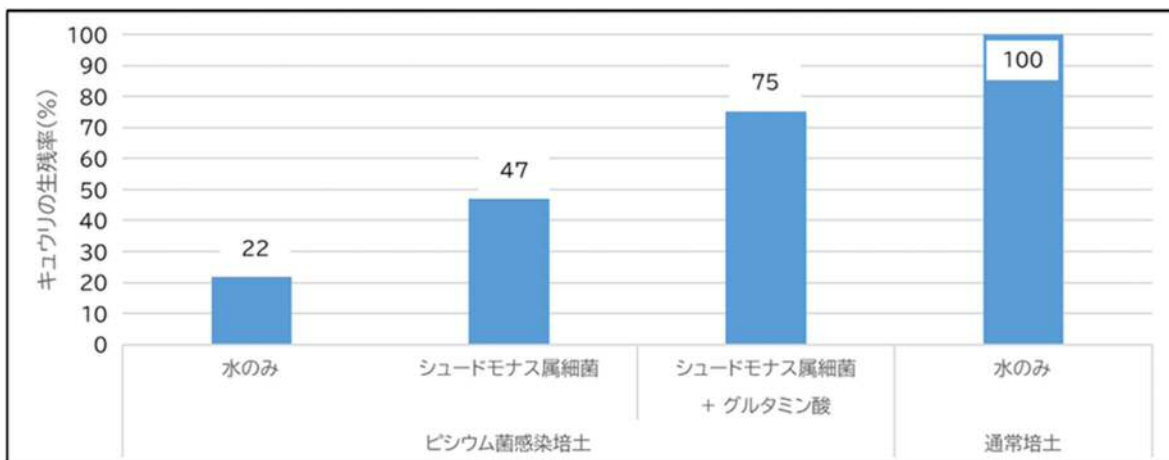


図. ピシウム病菌感染土壌におけるシュドモナス属細菌、グルタミン酸施用時のキュウリ幼苗の生残率

2. 「水稻移植栽培における除草剤体系処理によるナガエツルノゲイトウ防除技術標準作業手順書」を公開

2025 年 6 月 24 日

概要

農研機構は「水稻移植栽培における除草剤体系処理によるナガエツルノゲイトウ防除技術標準作業手順書」を公開しました。

ナガエツルノゲイトウは特定外来生物に指定されている多年生雑草で、河川や水路、水田などに侵入・定着しています。近年、東北以南の水稲作で問題となっており、侵入した水田での早期防除と分布拡大防止対策が求められています。

ナガエツルノゲイトウがすでにまん延している水田では、水稻の移植栽培期間中と収穫後の2時期に防除することが効果的です。水稻の移植栽培期間中は、有効な除草剤2剤を散布する「体系処理」で、収穫後は

「非選択性除草剤の散布と耕起の組み合わせ」で防除します。これらの防除技術を活用することで、水稻移植栽培期間中のナガエツルノゲイトウによる雑草害を軽減します。また、ナガエツルノゲイトウは節を含む切断茎や根の断片からの栄養繁殖によって増殖します。そのため収穫後のほ場管理により越冬する地下部が防除されることで、地域へのまん延防止が期待されます。

本手順書では、ナガエツルノゲイトウが発生している地域の普及指導員や営農指導員、生産者向けに、技術の概要や特徴、作業手順を、実証事例を交えて解説しています。



【利用方法】

以下のより、標準作業手順書のサンプル版(PDF)をどなたでもご覧いただけます。

標準作業手順書全編のご利用には利用者登録(無料)またはログインが必要です。

「水稻移植栽培における除草剤体系処理によるナガエツルノゲイトウ防除技術標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/186>



全農薬ひろば

白山神社と孫文（中国民主革命の偉大な先駆者、孫中山）

白山神社のあじさい祭と孫文は、歴史的な繋がりを持つイベントです。白山神社の鳥居をくぐると直ぐ左手に「孫文先生座石」と刻された石碑が建っている。白山神社は、辛亥革命の指導者である孫文が、辛亥革命前に日本に滞在していた際に、小石川原町（現在の白山四丁目、五丁目）の宮崎滔天（とうてん）宅に身を寄せ、境内の石に腰掛け、革命について語り合ったと伝わる場所です。また、白山神社はアジサイの名所としても知られており、毎年梅雨時期には、境内や白山公園にかけて、30種、3000株のアジサイが咲き誇り、「文京あじさいまつり」が開催されます。（今年は6月7日（土）～15日（日））



孫文先生座石



大島緑花



大島緑花の萼（装飾花）



両性花（花弁、雄蕊、雌蕊）

大島緑花

緑色の花のアジサイといえば以前は「幻の花」であり、あったとしても葉化病、ファイトプラズマ細菌によるもの、というのが一般論でした。この「大島緑花」は伊豆大島で発見された希少なガクアジサイであり、病気で発生したものではありません。「アジサイ葉化病」のような緑一色の花ではなく、青い花がきちんと咲きます。

花言葉『辛抱強い愛情』『元気な女性』

撮影・解説：宮坂 氏（2025年6月7日）

